



水野さんに対するパワハラの実態 その③

レポートの度重なる書き直し・強制で精神的に追い込む卑劣な会社！

「振り返り教育」と称する日勤教育で第4会議室に隔離された水野さんは、「個別原因追及」という報告書の作成を命じられます。

水野さんは、本件の原因について真剣に考え、経緯や契機を説明するために「今まで職場の管理職が、彼を見て見ぬ振りをして放置してきた」という事情を書きました。ところが、井出助役から、一方的に書き直しを指示されます。

また、井出助役は「イライラしてたんだろ、家のことで」と、原因が家庭問題にあるかのように言ってきました。このような対応から水野さんは、会社は全責任を自分一人に被せて、今までA車掌のことを見て見ぬ振りをしてきた会社の責任を免れようとしていると直感し、激しい怒りを覚えるとともに絶望的な気持ちになります。



さらに、井出助役は「いいか、じゃ言うぞ。カーっとして暴力振るったんだから、カーっとした時にはこうします、冷静に深呼吸して、冷静になって、その場から離れて、彼を呼んで注意しますと、そういうふうにしとかなないと。2度と暴力事件起こしませんよ、自分は気をつけますよ、と書かなきゃ。だしょ。」と書くように強制してきます。

水野さんは、言うことを聞かないとまた「書き直し」の繰り返しと、日勤教育を延々と続けられると思い、言われるがままに「個別原因追及」を書き直すこととします。

しかし、「これだめ～、だめ～」と明確な理由もなく何回も何回も書き直しを強制される状態が数日続き、精神的に疲弊していくと同時に、もう言われた通りに書かないと受け取ってもらえない、そうすることが1日も早く復帰できる道だと思えるようになります。